

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290600030		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホーム おいらせ		
所在地	〒034-0301 青森県十和田市大字奥瀬字中平155		
自己評価作成日	平成30年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成30年12月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

長年、地域に根差した運営をしていたクリニックでしたが、平成23年に閉鎖となり、その後の病棟有効活用として改築し、平成24年6月に開設しております。入居者様の殆どが、入居前より併設の通所を利用されていた、またはクリニックに通院していた地元の方でありますので、認知症になっても、住み慣れた地域で継続したケアを提供しています。また、旧十和田湖町の中心部に位置しており、近隣には消防署・駐在所・地域包括支援センターがあり、防災面や防犯面では大きな支えとなっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所の単独事業で認知症カフェを開催しており、認知症についての啓発活動に努めている。また、近隣事業所との交流会が定期的に開催されており、事業所間を往来することで職員や入居者の交流が図られている。家族会を組織しており、家族会からのボランティア活動によってレクリエーションや行事にも協力が得られており、事業所での生活を楽しく頂けるよう支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、グループホーム理念を始業前に黙読し、意思統一を図っている。また、全部署が所属している委員会からのポスターより、挨拶について唱和している。	毎日のミーティングや委員会での話し合いの中で、常に全職員が理念を唱和し、入居者一人ひとりが安心して地域で暮らしていくことが出来る事を目標に掲げて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	元々、地域の診療所であった為、地域に根差した運営を行っている。入居者様の殆どが入居前より併設の通所サービスを利用しており、現在も通所サービスを利用している方々との交流や地域の行事に参加する事で、地域との繋がりが出来ている。	地元の中学校の運動会に参加したり、警察や地元の方の協力で入居者が作成したマスコットの配布を恒例行事に盛り込んでおり、地域の人と触れ合う機会を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを開催し、認知症についての理解を地域の方々に深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、入居状況やホームで企画した行事、参加した研修や今後参加予定の研修について報告している。	2ヶ月に1度の会議では入居者の近況報告や行事や研修での内容報告をしながら、意見をもらい、次のステップに向けての話し合いがされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括サブセンターをはじめ、市の高齢介護課介護保険係の方々に相談し、助言をいただける関係を築いている。	運営推進委員会には必ず参加してもらう他に、日々の業務の中で相談や助言をいただき連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアル・指針を全松陰んが把握し理解を深め、日々のケアに活かせるように努めている。	身体拘束をしないという姿勢で職員全員が取り組み、スタッフルームに身体拘束をしないケアのマニュアルを作成し、掲示して全職員で意識を共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアル・指針を熟読し、理解しケアを行っている。虐待に関する外部研修に参加している他、全部署合同での報告会を開き、虐待防止に努めている。全部署で情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を部署内にて行い、また外部研修へ参加し、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、ご本人様・ご家族様に書面と口頭にて十分な説明を行い、納得して頂いた上で契約している。不安や疑問についても納得していただくまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より、入居者様やご家族様とコミュニケーションを図り、意見や要望、不満があった際は話し合いを持って、運営に反映させている。	遠くに住む家族が多いが、電話等で入居者の状況や通院の報告をした際に意見や要望がないかの聞き取りをしたり、アンケート調査も実施している。入居者には日々の何気ない会話などから思いをくみ取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、職員とコミュニケーションを図り、部署内の会議を開き、職員からの意見や提案を聞いている。更に年2回、事務長との個人面談を実施している。	月1回の職員会議を開催している他、日々コミュニケーションを図っている。各部署の代表から講習会での発表をしてもらい、それぞれのいい所を取り入れスキルアップに努めている。個人面談も年2回設けていて常に働く意欲の向上にも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事務長との年2回の個人面談を通して、職員の勤務状況や能力を把握している。なるべく残業が発生しないように配慮し、また職員が向上心ややりがいを持てるよう、積極的にコミュニケーションを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加する機会を設け、その後は全部署合同の伝達講習に参加し報告・情報共有、研修で学んだことを日々のケアに活かせるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が法人のホーム長会議へ定期的に参加する事で、ネットワークが出来ている。また、職員は実践者研修や外部研修への参加、近隣の他グループホームとの交流する機会を持ち、情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時より、アセスメントを通してご本人様を把握。また、コミュニケーションを積極的に図り、心配事や要望等を傾聴し、信頼関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時より、要望や不安を伺い、ご家族様が納得するまで説明し、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様の希望や意向を確認し、担当ケアマネと連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者様の思いを受容・共感し、理解するよう努めている。また、入居者様の得意・不得意、出来る事・出来ない事を見極め、協同しながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会や電話時、入居者様の最新の状態・状況を報告し、把握していただく事で、ご家族様と協力してご本人様を支えていける管家を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の馴染みの場所や人を把握している。主に、ご家族様や通所サービス利用者との交流を中心に、関係が途切れないよう支援に努めている。	病院受診の後に、入居前に行っていたお店に買い物に寄ったり、家族以外の知人が面会に来てくれたり、併設されているデイサービスセンターを利用している友人に面会に行くなど、交流が途切れる事なくできている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士のトラブルの際は間に入り、影響が残らないように早期に対応している。また、孤立しないよう配慮し、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了したご家族様との関係性を保ちながら、必要に応じて相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いや意向を把握し、職員間で情報共有している。また、ご本人様からの意思確認が取れにくい時は、ご家族様や関係者様より情報収集を行い、職員間で共有している。	普段の生活の中で気づくことが多く、全職員で行動や表情から思いをくみ取り、それでも困難な場合は多方向から情報を集めて、その人らしく生活できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様より話を聞き、アセスメントしている。得られた情報はプライバシーに配慮しながら活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の1日の過ごし方を把握し、状況・状態の変化があった際には職員間で伝達しあい、情報共有に努めている。また、1日の生活の中で出来る事が何かを把握し力を発揮できるよう、さりげなく援助するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様が、その人らしい生活を続けられるようケアプランの作成に努めている。ADLの変化に伴い、ケアプランの見直しを行っている。	介護計画は3か月に1度の見直しをしているが、状態に変化があればその都度、職員や家族に聞きながら入居者が必要としている支援をプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを把握し、毎日の生活状況や身体状況について記録を行っている。また、ケアプランに沿ったサービス提供ができたか、記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時の送迎や対応等、出来る範囲で行っている。希望した入居者様には個別で、外出支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設のデイサービスへの慰問を見学に行き、入居者様が楽しめるにしている。運営推進会議に地域の民生委員の方や町内会長に出席して頂いている。駐在所に協力いただき、入居者様に交通安全のマスコット配布に参加して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様やご家族様が希望している医療機関を継続してじゅしんできるように支援している。また、医療機関との良好な関係作りに努めている。家族様より医療機関についての相談があった際は、その都度、対応している。	入居前からのかかりつけ医を継続して受診している。家族が遠方に住んでいる人が多く、受診は職員の代行が多いが、家族で同席が可能な方はお願いしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約している訪問看護師の週1回の訪問時に、入居者様の状態・病院受診結果等を申し送りし、協同で健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、ご本人様のこれまでの健康状態を含めた生活状態を伝え、安心して治療できるよう病院側に情報提供している。また、入院状態の把握の為、随時、連絡をとりあい情報交換や相談を行い、早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の契約の段階で「重度化した場合の指針」に沿って、ホームの指針を明示しながら説明している。実際に重度化した場合は再度、ご家族様への説明と今後について十分に話し合いし、ケアマネと連携しながら進めている。	入居前に、重度化した場合の事業所の対応を説明し、対応を段階的に十分に理解してもらい、他事業所に移動が必要な場合は関係機関と連携し、安心した終末期を迎えて頂けるように対応や説明を家族にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に慌てる事がないように、手順や対応方法を作成し、掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間を想定し、訓練を実施している。強みとして、近距離に消防署・駐在所があり、救助への協力が得られることがある。	市の避難所にもなっているため、定期的に設備等の点検を行い、地域住民や消防や駐在所の協力も得ながら火災、地震、水害等の避難訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に十分に配慮し、個々に合わせた声掛けを行っている。また、個人情報の取り扱いにも十分に配慮している。	年長者としての敬意をもって接し、さり気ない声掛けを心がけながら、プライバシーにも十分配慮した対応を全職員で徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせた声掛けを行い、出来る限り自己決定が出来るように支援している。また、本人様がやりたい事を出来る限り行えるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に合った生活スタイルで過ごせるように努力はしているが、入浴は受診等の関係で希望通りに沿えない場合がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定が出来るように配慮している。着衣の乱れや汚染があった際は、さりげなく援助し清潔保持に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様には、食事前の準備を行っていた。献立は、法人の栄養士が作成したものを使用。事業所内の厨房で作った食事を盛り付けている。	献立は法人の栄養士が作成しているが、食事の準備や盛り付けは1人ひとりの好みに合わせながら一緒に行っている。おやつはボランティアの人も交えながら作っており、コミュニケーションの場にもなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の水分量・食事量を把握し、苦手なものは代替えで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、食後には口腔ケアを行っており、個々の力量を把握して援助している。また、口臭予防として、市販のリステリンを水で薄めて使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、援助を行っている。オムツ・パット等の使用者は継続する必要があるか、定期的に確認・検討している。	1人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄表を活用しながら、できる限りトイレでの排泄を促し、プライバシーに配慮した声掛けを心掛け、個々の排泄サインを見逃さないようオムツ外しに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、体操等の運動を行うよう支援している。また、水分を多く摂取できるよう配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴一覧表を作成し、週2回は入浴できるよう支援している。受診や行事の都合にて時間を変更する事もあるが、出来る限り希望に沿えるよう配慮している。拒否が強い方は無理をせず、希望時に入浴するよう支援している。	最低週2回の入浴日を設けている。1人ひとりの体調や拒否などがあれば、声かけの工夫や曜日をずらして、その時々々の状況に合わせて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた休息が取れるよう支援している。日中の活動の充足に努め、夜間は安眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方時、薬箋を各自で確認している。また、医療連携している訪問看護師に薬が変更になった際は情報を伝えたり、助言を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から得意なこと、普段の生活から「今」できる事を分析し、役割に繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の要望を聞きながら、行事を企画している。また、天候がいい日は、施設の敷地内を散歩している。	定期的に他の事業所との交流や、入居者の体調をみてスーパー内の飲食店に軽食等を食べに行ったり、花見や紅葉狩りに行き四季折々の季節を満喫している。天気の良い時は敷地内を積極的に散歩するなど外出できている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々のご家族様の意向に沿って、所持して頂いている。また、管理能力が低下している方は代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により行っている。ご家族様への暑中見舞いや年賀状に、入居者様の直筆メッセージを添えて頂き送付している。書けない方は、職員が代筆している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は不快がないよう、音量・匂い・室温に配慮している他、汚れ等で混乱が生じないように清掃している。	入居者に合わせて暖房の調整をしたり、天気の良い時はホールの窓を開け、窓から見える景色から折々の季節を感じてもらい、地域のボランティアが定期的に訪問して季節に合わせた貼り絵等を一緒に作って展示することで日々居心地の良い環境が整っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室にソファを設置、気の合う方同士で互いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自由に使っている。馴染みのある家具や写真、使い慣れた物や愛着のある物を持参して頂く等、居心地よく過ごせるように配慮している。	居室には、自宅で生活していた時の物を持参して頂き、入居者が居心地よく生活出来るよう、使い慣れた物や好みの物を活かした居室作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が過ごしやすいように、家具やベッドのレイアウトに配慮している。共有空間も同様に、安全に過ごせるよう配慮している。		